

令和元年度

狭山市文化財年報

埼玉県狭山市教育委員会

例 言

- ・ 本書は、令和元年度の狭山市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財担当の年報である。
- ・ 本書に掲載した埋蔵文化財確認調査等は、事業者の協力を得て行った。
- ・ 発掘調査等に係る資料等の保管・活用は、狭山市教育委員会が行った。
- ・ 本書の執筆及び編集は、社会教育課文化財担当が行った。

目 次

I	組織・予算等	1
1	組織	1
2	文化財保護審議会	1
(1)	委員名簿	1
(2)	開催状況	1
3	予算・決算の状況	2
(1)	文化財保護事業費	2
(2)	文化財発掘調査事業費	2
(3)	博物館管理事業費	2
(4)	博物館改修事業費	2
II	事業概要	3
1	調査・研究	3
(1)	画像・映像資料の収集・調査・研究	3
(2)	博物館収蔵資料の調査・研究	3
(3)	埋蔵文化財の調査	5
(4)	文化財関係資料の収集・調査・研究	8
2	管理	8
(1)	指定文化財の維持管理	8
(2)	災害時の文化財管理	8
(3)	文化財関係資料の整理	9
(4)	指定文化財の新指定	9
3	補助	9
(1)	指定文化財管理事業補助	9
(2)	指定文化財（民俗芸能）の振興事業補助	9
4	普及・啓発	10
(1)	講座・展示	10
(2)	刊行物等	10
(3)	ホームページ等における公開	10
III	資料	12
1	狭山市の指定文化財	12
(1)	県指定文化財	12
(2)	市指定文化財	13
(3)	国登録有形文化財	17

2	狭山市内の遺跡一覧・遺跡分布図	18
IV	報告等	20
1	新指定文化財関係資料	20
2	博物館収蔵資料調査報告	24
3	文化財関係資料調査報告	31
4	埋蔵文化財発掘調査概況報告	33

I 組織・予算等

1 組織

教育委員会	教育長	向野 康雄				
生涯学習部	部長	滝嶋 正司				
	次長	内藤 光重				
社会教育課	課長	田中 肇夫				
文化財・博物館担当	主査	安井 智幸				
	主任	三ツ木康介	吉田 弘	石塚 和則		
	主事補	原 彩花				
文化財整理作業員	岸 幸子	江川久美子	名雲 教子	住谷三千代	山田久美子	
文化財発掘作業員	小林はつみ	橋本 弓子	岡田 浩	中山 昇	柴田 秀二	芝原 茂
	石田 清美	新藤 三郎	小宮 憲一	山下 富廣	渡辺 和久	安富 恵之
	成田 敏明	森部 大智				

2 文化財保護審議会

(1) 委員名簿

学識経験者	元埼玉県立歴史と民俗の博物館主任専門員兼学芸員	岩本 克昌
学識経験者	狭山歴史ガイドの会会員	川田 みな子
学識経験者	元公立小学校教諭	権田 恒夫
◎ 学識経験者	元狭山市立博物館長	高橋 光昭
学識経験者	元狭山市職員	名雲 康仁
学識経験者	元狭山市立博物館協議会委員	橋本 太郎
○ 学識経験者	元埼玉県立博物館長	林 宏一
学識経験者	狭山歴史ガイドの会会員	樋口 竹子
学識経験者	大東文化大学教授	宮瀧 交二

※ ◎：会長、○：副会長

(2) 開催状況

日程	議題等
第1回（5月17日）	（1）平成30年度事業報告について （2）令和元年度事業予定について （3）その他
第2回（11月26日）	（1）令和2年度事業予定（案）について （2）その他
第3回（中止）	（1）令和2年度予算（案）について （2）文化財関係資料の評価について （3）その他

3 予算・決算の状況

(1) 文化財保護事業費

事業名	予算額	7,779,000	決算額	4,987,319
報酬		216,000		100,800
報償費		28,000		0
旅費		15,000		13,662
需用費		355,000		224,383
役務費		164,000		133,994
委託料		718,000		706,380
使用料及び賃借料		5,000		0
工事請負費		(当初0) 4,506,000		2,168,100
負担金補助及び交付金		1,765,000		1,640,000
公課費		7,000		0

※台風19号により被害を受けた埼玉県指定文化財(史跡)七曲井の災害復旧工事を緊急に実施したため、補正予算により工事請負費を設定した。

(2) 文化財発掘調査事業費

事業名	予算額	44,531,000	決算額	41,490,800
賃金		21,696,000		19,302,946
需用費		988,000		409,236
役務費		171,000		0
委託料		6,540,000		8,010,772
使用料及び賃借料		14,987,000		13,767,846
工事請負費		149,000		0

※狭山工業団地拡張地区基盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査において事業者よりユニットハウス等の供出を受けたため、役務費及び工事請負費の支出はなくなった。

(3) 博物館管理事業費

事業名	予算額	75,250,000	決算額	73,734,244
報酬		116,000		100,800
需用費		1,500,000		0
委託料		73,634,000		73,633,444

(4) 博物館改修事業費

事業名	予算額	51,282,000	決算額	47,279,000
委託料		2,442,000		2,322,000
工事請負費		48,840,000		44,957,000

※博物館空調設備(冷温水発生装置)の改修(交換)設計・工事と、ハロン消火設備の改修(交換)設計・工事の事業費。

※単位：円

II 事業概要

1 調査・研究

(1) 画像・映像資料の収集・調査・研究

No.	文化財名	指定文化財	撮影時期	形態
1	笹井豊年足踊り	○	H31. 4. 13, 14	デジタル写真・映像
2	お諏訪様のなすとっかえ	○	R1. 8. 17, 18	デジタル写真・映像
3	広瀬浅間神社の火祭り	○	R1. 8. 21	デジタル写真・映像
4	八幡神社鹿子舞	○	R1. 8. 30~9. 16	デジタル写真・映像
5	入曾の獅子舞	○	R1. 10. 19, 20	デジタル写真・映像
6	上赤坂獅子舞	○	R1. 10. 19	デジタル写真・映像
7	大国神社星祭		R1. 12. 22	デジタル写真・映像
8	常泉寺観音待ち		R2. 1. 11	デジタル写真・映像
9	笹井観音堂観音講		R2. 1. 20	今年度で終了（情報のみ）
10	禅龍寺節分		R2. 2. 3	デジタル写真・映像
11	野々宮神社節分		R2. 2. 3	デジタル写真・映像
12	梅宮神社甘酒祭・西方囃子	○	R2. 2. 10, 11	デジタル写真・映像

(2) 博物館収蔵資料の調査・研究

受入No.	資料名	受入日	備考
190001	市指定文化財注口付き壺型土器	R1. 7. 1	社会教育課より移管
190002	脇差	R1. 9. 9	立川家（奥富）関係資料（受贈）
190003	脇差	R1. 9. 9	立川家（奥富）関係資料（受贈）
190004	印	R1. 9. 9	立川家（奥富）関係資料（受贈）
190005	版木（髭大黒）	R1. 9. 9	立川家（奥富）関係資料（受贈）
190006	石板	R1. 9. 9	立川家（奥富）関係資料（受贈）
190007-1	古文書（天明四辰年御触書之写）	R1. 9. 9	立川家（奥富）関係資料（受贈）
190007-2	古文書（寺社御奉行所御達書写）	R1. 9. 9	立川家（奥富）関係資料（受贈）
190008	『風鈴』	R1. 9. 9	土家由岐雄資料（受贈）
190009	『童話と童話劇 夢を売る店』	R1. 9. 9	土家由岐雄資料（受贈）
190010	『おまつりのおさる』	R1. 9. 9	土家由岐雄資料（受贈）
190011	『昭和児童文学全集 11』「子牛の仲間」「犬ねこ病院うら」	R1. 9. 9	土家由岐雄資料（受贈）
190012	『ゆかいなゆきちゃん』	R1. 9. 9	土家由岐雄資料（受贈）
190013	『こどものおうさま』	R1. 9. 9	土家由岐雄資料（受贈）
190014	『ドイツ人形』	R1. 9. 9	土家由岐雄資料（受贈）
190015	『人形天使』	R1. 9. 9	土家由岐雄資料（受贈）
190016	『虹の出帆』	R1. 9. 9	土家由岐雄資料（受贈）
190017	『愛の学校・二年生』	R1. 9. 9	土家由岐雄資料（受贈）
190018	『ビキニ島のかめ』	R1. 9. 9	土家由岐雄資料（受贈）
190019	『おさるのふうせん』	R1. 9. 9	土家由岐雄資料（受贈）
190020	『東京を買った屑屋さん』	R1. 9. 9	土家由岐雄資料（受贈）

190021	『おこりんぼむし』	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190022	『長編童話 雲を浮かべる石』	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190023	『ふしぎなおやしろ』	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190024	『あかるい童話・一年生』	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190025	『温泉場のためき』	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190026	『花の南京』(おはなし文庫)	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190027	『童話集 手品つかい』	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190028	『童句集 おまつり』	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190029	『東京っ子物語』	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190030	『かわいそうなぞう』(フォア文庫)	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190031	『ちびみみぞうさん』	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190032	『げたをはいたゾウさん』	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190033	『楽しい童話・四年生』	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190034	『太った王さま』	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190035	『なかよし 子ねこ』	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190036	『日本むかし話』	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190037	『天使と戦争 ある人形研究者の青春』	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190038	『ほらふきだんしゃく』(小学館幼年文庫)	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190039	『日本のふしぎ話』	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190040	『Faithful Elephants』(Hard copy)	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190041	『Faithful Elephants』(Paperback)	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190042	『Fidèles Éléphants』(Paperback) (仏訳)	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190043	『Fidèles Éléphants』(Hard copy) (仏訳)	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190044	小学館文学賞要項 第38回	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190045	野間児童文芸賞要項 第9回	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190046	『人形天使』(「光の泉」13ヶ月連載)	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190047-1	『朝日ジャーナル』1962.3.4号	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190047-2	『朝日ジャーナル』1962.3.25号	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190048	『クルーゼ人形』に関する参考資料	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190049	『人形天使』直筆原稿 全巻	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190050-1	雑誌『児童文芸』1999.11月号	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190050-2	雑誌『児童文芸』2009.2-3月号	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190051	『手品をつかう はとぼっぼ』直筆原稿	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190052	『かわいそうなぞう』についての随筆	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190053	肖像写真 土家由岐雄	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190054	土家由岐雄の原稿下書き	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190055	『童話集 母の日』	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190056	雑誌『児童文芸』コピー	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190057	「五十余年もむかしのこと」コピー	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190058	童話劇を書いていた頃の参考資料	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)
190059	万年筆	R1.9.9	土家由岐雄資料 (受贈)

190060-1	印鑑 「つちやゆきお」	R1.9.9	土家由岐雄資料（受贈）
190060-2	印鑑 「童心」	R1.9.9	土家由岐雄資料（受贈）
190061	印鑑 「由岐雄」	R1.9.9	土家由岐雄資料（受贈）
190062	机（土家由岐雄使用）	R1.9.9	本橋家（中央）資料（受贈）
190063	絵画（紙本彩色、忠武市）	R1.9.9	山崎家（広瀬）資料（受贈）
190064	絵画（紙本墨彩）	R1.9.9	山崎家（広瀬）資料（受贈）
190065	板額（清水宗徳筆）	R1.9.9	山崎家（広瀬）資料（受贈）
190066	額（古文書）	R1.9.9	山崎家（広瀬）資料（受贈）
190067-1	額（近衛除隊）	R1.9.9	山崎家（広瀬）資料（受贈）
190067-2	額	R1.9.9	山崎家（広瀬）資料（受贈）
190068	掛軸（清水宗徳筆）	R1.9.9	山崎家（広瀬）資料（受贈）
190069-1	絵画（清水宗徳画）	R1.9.9	山崎家（広瀬）資料（受贈）
190069-2	絵画（清水宗徳画）	R1.9.9	山崎家（広瀬）資料（受贈）
190070	『清水宗徳翁小伝』	R1.9.9	山崎家（広瀬）資料（受贈）
190071	弓	R2.3.23	山崎家（広瀬）資料（受贈）
190072	袖がらみ	R2.3.23	山崎家（広瀬）資料（受贈）
190073	槍	R2.3.23	山崎家（広瀬）資料（受贈）
190074	なぎなた	R2.3.23	山崎家（広瀬）資料（受贈）
190075	十字字槍（穂鞘付）	R2.3.23	山崎家（広瀬）資料（受贈）
190076	古文書	R2.3.23	山崎家（広瀬）資料（受贈）
190077	小太鼓	R2.3.31	調査中

※狭山市文化財関係資料取扱要綱に則り随時実施した。

(3) 埋蔵文化財の調査

ア 埋蔵文化財包蔵地照会

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
窓口	132	121	180	174	121	134	149	109	128	114	157	158	1,677
電話	13	22	10	7	13	10	7	11	9	15	12	9	138
合計	145	143	190	181	134	144	156	120	137	129	169	167	1,815

イ 確認調査

No.	遺跡名	所在地	調査日	面積（㎡）	調査結果
1	今宿遺跡	広瀬台 1-50-1	H31.4.17	709.00	奈良・平安時代遺構 8 件検出 （現況保存）
2	中原遺跡	狭山 1874-1 の一部	H31.4.25	441.29	遺構・遺物なし
3	上広瀬西久保遺跡	大字上広瀬字上久保 179-1	H31.4.26	1283.00	工事立会い（遺構・遺物なし）
4	今宿遺跡	広瀬台 1-19-10	R1.5.10	181.35	昭和 44 年度本発掘調査済
5	揚櫃木遺跡	大字上奥富字平塚 310-10	R1.5.20	190.02	遺構・遺物なし
6	宮ノ越遺跡	柏原 3636-44	R1.5.27	409.00 の一部	平成 30 年度確認調査済 （遺構・遺物なし）
7	今宿遺跡	広瀬台 1-52-9	R1.6.6	664.00	奈良・平安時代遺構 2 件検出 （現況保存）
8	宮ノ越遺跡	柏原 3636-33	R1.6.6	96.00 の一部	工事立会い（遺構・遺物なし）

9	城ノ越遺跡	柏原字城ノ越 2324-1、2324-2 の各一部	R1. 6. 11	2,668.00	奈良・平安時代遺構 9 件検出 (城ノ越 21 次調査)
10	峰遺跡	狭山 475-1	R1. 6. 20	446.88	遺構・遺物なし
11	石無坂遺跡	入間川 4-20-11	R1. 9. 3	109.01	工事立会い(遺構・遺物なし)
12	上広瀬西久保遺跡	大字上広瀬字西久保 1122、1123-1、1217-1、-4、-5、1218、1220-1、-8、1222-1、-4、-5、-7、-8、-9 の各一部	R1. 7. 8 ~ 12. 27	9687.34 の一部	工事立会い(遺構・遺物なし)
-	御所の内遺跡	柏原字御所ノ内 2431-3	継続中	1,025.00 の一部	継続中
13	霞ヶ丘遺跡	広瀬台 1-66-6	R1. 7. 22	178.62	遺構・遺物なし
14	西久保遺跡	上広瀬西久保土地区画整理事業 仮換地 1 街区 6、10、11、12 画地	R1. 7. 24	12,280.00	遺構・遺物なし
15	滝祇園遺跡	入間川 2-2569-1、2572-1	R1. 7. 23	765.69	工事立会い(遺構・遺物なし)
16	富士見南遺跡	入間川 3147-6	R1. 7. 31	343.79	遺構・遺物なし
17	揚榎木遺跡	大字上奥富字平塚 310-9	R1. 8. 7	151.93	遺構・遺物なし
18	中原遺跡	狭山 1874-1	R1. 8. 27	576.00	奈良・平安時代遺構 1 件検出 (現況保存)
19	峰遺跡	狭山 1938-17、1939-11	R1. 8. 30	329.31	奈良・平安時代遺構 2 件検出 (現況保存)
20	小山ノ上遺跡	柏原字下双木 1267-4	R1. 8. 29	164.00 の一部	工事立会い(遺構・遺物なし)
21	富士見西遺跡	入間川 3373-6 の一部	R1. 9. 9	102.91	遺構・遺物なし
22	戸張遺跡	大字上奥富字堂元 151-1、-5、 152-1、-6	R1. 8. 29	669.59	遺構・遺物なし
23	峰遺跡	狭山 2000-7	R1. 11. 8	330.67 の一部	工事立会い(遺構・遺物なし)
24	今宿遺跡	広瀬台 1-46-14	R1. 10. 21	107.63	工事立会い(遺構・遺物なし)
25	宮ノ越遺跡	柏原 3626-16	R1. 10. 25	299.00	遺構・遺物なし
26	富士見南遺跡	富士見 2-6227-4	R1. 12. 20	100.67	工事立会い(遺構・遺物なし)
27	宮原遺跡	柏原字宮原 2287-7	R1. 11. 28 R2. 2. 18	294.00 の一部	工事立会い(遺構・遺物無し)
28	鳥ノ上遺跡	柏原 905-2、905-5 の各一部、905- 4	R1. 11. 5 ~ 15	1,488	遺構・遺物なし
29	稻荷上遺跡	大字下奥富 698-23、699-7	R1. 11. 6	316.09	遺構・遺物無し
30	上広瀬西久保遺跡	大字上広瀬字西久保 1187-1、-2	R1. 11. 08	1,687	工事立会い(遺構・遺物無し)
31	揚榎木遺跡	大字上奥富字平塚 310-8	R1. 11. 8	152.16	遺構・遺物無し
32	中原遺跡	狭山 662-3、662-4、662-5	R2. 2. 17	198.40	工事立会い
33	中原遺跡	狭山 631-10	R1. 11. 7	106.66	工事立会い(遺構・遺物無し)
34	上広瀬西久保遺跡	大字上広瀬字西久保 1176-1、-6、	R1. 11. 18	163.18	工事立会い(遺構・遺物無し)
35	今宿遺跡	広瀬台 1-46-14	R1. 10. 21	107.63	工事立会い(遺構・遺物無し)

36	上広瀬西久保遺跡	大字上広瀬西久保 1176-2、-3、-4、-5、-7	R1. 11. 25	1, 517. 21	工事立会い（遺構・遺物無し）
37	上諏訪遺跡	入間川 4-12-26	R1. 12. 10	157. 50	工事立会い（遺構・遺物無し）
38	戸張遺跡	上奥富 151-16	R2. 1. 8 R2. 3. 4	3. 00	工事立会い（遺構・遺物無し）
39	城ノ越遺跡	柏原字城ノ越 2340-14、2340-15	R2. 1. 17	299. 88	時代不明遺構 1 件検出 （現況保存）
40	金井上遺跡	大字笹井 617-5、-6、-8、-9、-10、-11、-12、-13、-15	R2. 2. 27	1297. 52	工事立会い（遺構・遺物無し）
41	上双木遺跡	柏原 912-3	R2. 3. 2～6	272. 00	遺構・遺物無し
42	今宿遺跡	広瀬台 1-53-11	R2. 3. 5	504. 00	遺構・遺物無し
43	八軒家の井	大字堀兼字八軒家 2338-2	R2. 2. 14	298. 00	奈良・平安時代遺構 1 件検出、 工事立会い（現状保存）
44	中原遺跡	狭山 662-3、662-4、662-5	R2. 3. 3	198. 40	遺構・遺物無し
45	揚櫓木遺跡	大字上奥富字揚櫓木下 19-7、20-1、20-5	R2. 2. 27	2355. 78	遺構・遺物無し
-	字尻遺跡	柏原字字尻 3681-5	継続中	2. 25	継続中
46	中原遺跡	沢 855-1	R2. 2. 17	1. 00	工事立会い（遺構・遺物無し）
47	上諏訪遺跡	入間川 4-12-26	R2. 12. 10	182. 06	工事立会い（遺構・遺物無し）
48	今宿遺跡	広瀬台 1-555-58	R2. 3. 5	150. 74	遺構・遺物無し
-	今宿遺跡	広瀬台 1-52-14	継続中	0. 52	継続中
-	今宿遺跡	広瀬台 1-50-1	継続中	2. 00	継続中

※令和元年度実施の発掘調査費用の実態調査及び発掘届等の統計調査に準拠。

ウ 発掘調査

No.	調査名	所在地	調査期間	面積 (㎡)	調査内容
1	狭山工業団地拡張基盤整備事業発掘調査※1(鳥ノ上・小山ノ上・上双木遺跡)	柏原字上双木 911-5 外	H31. 4. 16 ～ R2. 3. 31	61, 441. 07	奈良・平安時代竪穴住居 111 軒、掘立柱建物 73 棟、溝跡 19 条、土壇 107 基、性格不明遺構 2 基、ピット 227 基等
2	城ノ越遺跡第 21 次	柏原字城ノ越 2324-1	R1. 7. 28 ～ 9. 30	545. 5	奈良・平安時代竪穴住居 1 軒、土壇 5 基

※1 調査内容は令和元年度実施分のみ記載（IV 報告等 4 参照）。また、民間発掘調査会社（国際文化財株式会社）を発掘調査支援として導入。

※2 狭山市遺跡調査会が実施。

エ 出土品等整理作業

文化財センターで、出土品の接合・実測等の整理作業を実施。

No.	調査名	洗浄	注記	接合	拓本	実測	トレース	図面整理	原稿執筆
1	宮地遺跡第 7 次					10 点	8 点		
2	城ノ越遺跡第 20 次						13 点	3 点	
3	鳥ノ上遺跡第 3 次	コンテナ 12	コンテナ 27						
4	城ノ越遺跡第 21 次						11 点	6 点	

(4) 文化財関係資料の収集・調査・研究

No.	整理対象	作業日	作業概要
1	立川家(奥富)関係資料	R1. 7. 12	台帳作成、収蔵に係る簡易な清掃処理
2	本橋家(中央)関係資料	R1. 8. 29	台帳作成、収蔵に係る簡易な清掃処理
3	山崎家(広瀬)関係資料	R1. 9. 4、R2. 3. 23	台帳作成、収蔵に係る簡易な清掃処理
4	土家由岐雄関係資料	R1. 9. 9	台帳作成、収蔵に係る簡易な清掃処理
5	藤本一美関係資料	R1. 12. 5, 20~3. 31	絵画(トレース図等)の簡易な清掃、点数計測、写真撮影
6	久保田家(北入曾)関係資料	R2. 1. 22, 2. 19, 3. 24	製茶機の簡易な清掃、計測、関連資料収集
7	小峰家(青柳)関係資料	R2. 3. 11~19	民具の簡易な清掃、実測図・記録保存用資料カード作成

2 管理

(1) 指定文化財の維持管理

No.	業務・事業名	実施内容	形態	実施等団体名
1	県指定史跡七曲井除草管理業務	除草2回、伐採1回	委託	(株)狭山緑化土木
2	城山砦跡内除草・低木剪定等処分業務	2回	委託	(株)狭山緑化土木
3	史跡富士塚除草及び落葉等処分業務	1回	委託	(株)富士造園
4	影隠地藏除草管理業務	清掃12回、除草2回	委託	水富地区根山自治会
5	今宿遺跡除草管理業務	(清掃、除草3回)	委託	日生さやま台自治会
6	下水野の地藏尊除草管理業務	(清掃、除草12回)	委託	下水野自治会
7	城山砦跡内違法廃棄物除去	1回(12/16)	直営	社会教育課
8	広福寺山門消防点検	1回(12/24)	立会い	狭山消防署、社会教育課
9	指定文化財(七曲井)災害復旧工事(県費補助有)	台風19号災害復旧工事	工事	(株)狭山緑化土木
10	指定文化財説明板板面交換等修繕	2基(梅宮神社甘酒祭り、梅宮神社鰐口)	修繕	(有)タカラ堂

(2) 災害時の文化財管理

No.	災害	文化財名	被害状況
1	台風15号 (R1. 9. 8)	七曲井	異常なし
		廣瀬神社の大ケヤキ	大きな損傷なし(8月に危機回避剪定を実施済)
		羽黒神社の菩提樹	大きな損傷なし(枯れ枝については樹木医に相談済み)
		柏原鳥ノ上発掘調査現場	配電盤より漏電、9日13:00に復旧
		今宿遺跡(復元住居)	大きな損傷はないが、屋根材の剥落が顕著
		八幡神社本殿	異常なし
		広福寺山門	異常なし
		天岑寺惣門、月待供養の碑、小笠原家墓地	異常なし
		堀兼神社の隨身門	軒の雨染みが顕著
		城山砦跡	中型の倒木を1本、小型の倒木を2本確認、狭山ニュータウン側入口に泥の流出を確認、人力で除去
		城ノ越21次発掘調査現場	仮設トイレが横転。職員の手により復旧
		狭山工業団地富士塚	中型の倒木を2本確認

2	台風 19 号 (R1. 10. 12)	七曲井	全深の 1/3 程度まで水没、不老川側の土壁一部崩落、応急処置として土嚢を充填、R2. 2. 17 より災害復旧工事を実施（県費補助有）
		廣瀬神社の大ケヤキ	大きな損傷なし
		羽黒神社の菩提樹	大きな損傷なし
		柏原鳥ノ上発掘調査現場	大きな損傷なし
		今宿遺跡（復元住居）	大きな損傷なし
		八幡神社本殿	異常なし
		広福寺山門	異常なし
		天岑寺惣門、月待供養の碑、小笠原家墓地	異常なし
		堀兼神社の隨身門	軒の雨染みが顕著
		城山砦跡	狭山ニュータウン側入口に泥の流出を確認、人力で除去
		狭山工業団地富士塚	中型の倒木を 2 本確認
		狭山市立博物館	雨漏り 3 箇所発生、資料に影響はなし

(3) 文化財関係資料の整理

No.	整理対象	作業概要	数量
1	稲荷上遺跡第 6 次調査図面	ラベル、図面整理番号簿を作成	-
2	寄贈報告書	受贈処理、一覧表を 199 冊分作成	199 冊
3	図書資料（博物館蔵書）	博物館図書資料一覧表整備	2, 670 冊
4	遠藤三郎関係資料	分類	-

(4) 指定文化財の新指定

「注口付き壺型土器」について、令和元年 7 月 1 日付で新たに市指定文化財に指定した（IV 報告等 1 参照）。

3 補助

(1) 指定文化財管理事業補助

No.	実施等団体名	事業内容
1	廣瀬神社	廣瀬神社の大ケヤキ樹勢回復事業
2	堀兼神社	堀兼神社隨身門修復実施設計業務
3	笹井豊年足踊り保存会	笹井豊年足踊り提灯新調事業
4	柏原郷土芸能会	柏原祇園囃子法被新調事業
5	永代寺	永代寺木造不動明王像修復事業
-	羽黒神社	羽黒神社菩提樹樹勢回復事業（申請無し）

(2) 指定文化財（民俗芸能）の振興事業補助

No.	実施等団体名	事業内容
1	入曽の獅子舞保存会	入曽の獅子舞後継者育成
2	梅宮神社甘酒祭保存会	梅宮神社甘酒祭後継者育成
3	入間川鹿子舞保存会	入間川の鹿子舞後継者育成
4	狭山市民俗芸能祭囃子連合会	狭山市民俗芸能祭囃子後継者育成
5	上赤坂の獅子舞保存会	上赤坂の獅子舞後継者育成
6	柏原郷土芸能会	柏原祇園囃子後継者育成

4 普及・啓発

(1) 講座・展示

No.	開催日	事業名	場所	人数等	主な内容
1	R1. 5. 14	ふじみ寿大学 館外研修	狭山市内	29	稲荷山公園、狭山市立博物館の見学引率
2	R1. 5. 21	学校講座	広瀬小学校	74	縄文時代の暮らし（講義）6年生2組
3	R1. 6. 4	学校講座	広瀬小学校	74	火おこしに挑戦！（体験学習）6年生2組
4	R1. 6. 18	学校講座	今宿遺跡	74	遺跡見学解説広瀬小学校6年生2組
5	R1. 7. 10	学校講座	御狩場小学校	37	火おこしに挑戦！（体験学習）5年生1組
6	R1. 7. 26	発掘体験	鳥ノ上遺跡	12	遺跡についての講座、発掘現場の見学、発掘体験
7	R1. 7. 27	発掘体験	鳥ノ上遺跡	11	遺跡についての講座、発掘現場の見学、発掘体験
8	R1. 9. 28 ～11. 24	展示監修	博物館	-	狭山市立博物館共催企画展「さやまとつなん展」
9	R1. 11. 2	博物館関連事業 ドッキー作り講座	博物館	26	狭山市立博物館共催企画展「さやまとつなん展」 における土器片そっくりなクッキー作り講座
10	R1. 11. 4	博物館関連事業 さやま遺跡さがし隊	鳥ノ上遺跡	21	狭山市立博物館共催企画展「さやまとつなん展」 における遺跡についての講座、発掘現場の見学、 土器採取と洗浄作業体験
11	R1. 11. 6	出前講座	鳥ノ上遺跡	11	遺跡についての講座、発掘現場の見学
12	R1. 11. 15	開校記念日講話	笹井小学校	-	宮地遺跡についての講話
13	R1. 11. 16	博物館関連事業 講演会	博物館	58	狭山市立博物館共催企画展「さやまとつなん展」 における学術講演、テーマ：「狭山の縄文」
14	R1. 11. 21	講演会	博物館	17	入間地区社会教育協議会文化財保護担当者部会 第3回研修会講演、テーマ「縄文中期中葉の土器 型式と文化内容の変化について」
15	R1. 12. 26	出前講座	鳥ノ上遺跡	18	遺跡についての講座、発掘現場の見学
16	R2. 1. 25	第37回狭山市文化 財防火デー-防火訓練	金剛院	80	事前訓練と想定訓練、市指定文化財一般公開及び 説明会を併せて実施
17	R2. 2. 1, 8, 15	文化財講習会	博物館	12	お囃子教室を3日間で実施、参加者数は延べ人数
18	R2. 2. 1～18	文化財展1	博物館	-	お囃子展
19	R2. 2. 12	出前講座	鳥ノ上遺跡	42	発掘現場の見学
20	R2. 2. 13	出前講座	鳥ノ上遺跡	14	発掘現場の見学
-	R2. 3. 11	出前講座（中止）	鳥ノ上遺跡	-	資料作成後、新型コロナウイルス感染拡大防止の ため中止
21	R2. 3. 16～27	文化財展2	市役所 エントランス ホール	98	令和元年度埋蔵文化財発掘調査概報（新型コロナ ウイルス感染拡大防止のため積極的な広報は控 えた）、人数はパンフレットの配布数

(2) 刊行物等

特になし。

(3) ホームページ等における公開

No.	タイトル	備考等
1	平成30年度 狭山市文化財年報	公式ホームページ掲載

2	お雛子を学ぶ（令和元年度文化財展・講習会資料）	公式ホームページ掲載
3	岩合光昭写真展ネコライオン（博物館企画展パンフレット）	公式ホームページ掲載
4	ざんねんな昆虫展（博物館企画展パンフレット）	公式ホームページ掲載
5	縄文時代のさやまつな展（博物館企画展パンフレット）	公式ホームページ掲載
6	日本刀の美（博物館企画展パンフレット）	公式ホームページ掲載
7	小山ノ上遺跡 2～5 次 宮ノ越遺跡 2 次 中原遺跡 揚楯木遺跡 7・9 次 御所の内遺跡 3 次	全国遺跡報告総覧掲載※

※ 公式ホームページに掲載していた埋蔵文化財報告書を、独立行政法人 奈良国立文化財研究所及び島根大学が統括する『全国遺跡報告総覧』に登録し、ダウンロードの便を図った。

Ⅲ 資料

1 狭山市の指定文化財

(1) 県指定文化財

ア 工芸品

No.	指定年月日	名称	所在地	所有者(管理者)	概要
1	S29. 10. 23	さはりの壺	入間川 3-6-14	八幡神社	「さはり」とは、銅を主として錫・鉛(または銀)を加えた、黄白色の合金のことである。壺の高さ18.7cm、直径10cm、口径7cm。

イ 古文書

No.	指定年月日	名称	所在地	所有者(管理者)	概要
2	S34. 3. 20	篠井家文書	笹井	個人蔵	篠井家は江戸時代まで笹井観音堂とよばれた本山派修験・聖護院末28院の1寺院で、その修験関係文書16通が指定を受けている。

ウ 無形民俗文化財

No.	指定年月日	名称	所在地	所有者(管理者)	概要
3	S54. 3. 27	入曽の獅子舞	南入曽 460 金剛院 南入曽 641 入間野神社	入曽の獅子舞保存会	毎年10月に、金剛院と入間野神社に奉納される。1日目は金剛院で揃獅子を、2日目は金剛院で前狂い・入間野神社で全曲が奉納される。
4	H4. 3. 11	梅宮神社の甘酒祭り	上奥富 508 梅宮神社	梅宮神社甘酒祭保存会	毎年2月10日に座揃式、2月11日に大祭が行われる。関東地方には珍しい頭屋制(氏子組の輪番制)で祭が運営されている。

エ 史跡

No.	指定年月日	名称	所在地	所有者(管理者)	概要
5	S24. 2. 22	七曲井	北入曽 1366	常泉寺	武蔵野の歌枕として名高い「ほりかねの井」の1つといわれる。9世紀後半から10世紀前半にかけて掘られたと考えられる。

オ 旧跡

No.	指定年月日	名称	所在地	所有者(管理者)	概要
6	S36. 9. 1	堀兼之井	堀兼 2220	堀兼神社	枕草子や千載和歌集で「ほりかねの井」とよばれる漏斗状井戸の1つ。直径7.2m、深さ1.9m。

カ 天然記念物

No.	指定年月日	名称	所在地	所有者(管理者)	概要
7	H10. 3. 17	広瀬神社の大ケヤキ	広瀬 2-23-1	広瀬神社	1本が高さ約32m、幹周り約6.3m、もう1本が高さ約27m、幹周り約6.1m。樹齢はいずれも約800

					年と推定され、まれにみる巨木である。
8	H15. 3. 18	笹井産出アケボノゾウ 骨格化石	稲荷山 1-23-1 博物館	狭山市	アケボノゾウは体高1.5～1.8m、体重2～3tと推定され、小柄で長いキバを持つ。入間川流域の笹井で骨格化石が発掘されている。

(2) 市指定文化財

ア 建造物

No.	指定年月日	名称	所在地	所有者 (管理者)	概要
9	S48. 3. 1	天岑寺惣門	沢 5-34	天岑寺	総檜材で、屋根は瓦葺切妻、門全体は沖縄風の様式が感じられる。表間口 3.64m、奥行き 3m の四脚門である。
10	S48. 3. 1	広福寺山門	下奥富 844	広福寺	白壁が美しい竜宮造りの建築様式をとり、入母屋造りの瓦葺屋根の下は鐘楼になっている。
11	S48. 3. 1	八幡神社本殿	入間川 3-6-14	八幡神社	唐破風向拝付、千鳥破風付入母屋造りという建築様式で、周囲には見事な彫刻が施されている。
12	S61. 11. 1	隨身門及び二神像	堀兼 2220	堀兼神社	市内唯一の隨身門で、桁行 6.85m、梁行 4.12m、単層入母屋造りの八脚門である。朱塗り門の両側には神像が安置されている。

イ 絵画

No.	指定年月日	名称	所在地	所有者 (管理者)	概要
13	S50. 3. 1	白鬚神社韋駄天の額	柏原 1153	柏原 白鬚 神社	絵馬様式で、幅 179cm、左右の高さ 113cm、中央の高さ 131cm。宝棒を振り上げ、仏舎利を奪った魔王を追いかけている姿が描かれている。
14	S51. 4. 1	仙人の図	柏原	個人蔵	鉄拐（てっかい）と蝦蟇（がま）が一幅ずつ描かれ、2つで一对をなしている。柴田是真（1807～1891）作。
15	S50. 3. 1	ねずみの図	柏原 1059 (博物館に 寄託)	西浄寺	木の額に描かれた彩色画で、たくさんのねずみが張子の小槌を作っている姿が描かれている。河鍋暁斎（1831～1889）作。
16	S52. 9. 1	桃園三傑図	上奥富 508	梅宮神社	劉備・関羽・張飛の3人が、桃の木の下に会し、兄弟の盟を結んでいるところが描かれている。縦 125cm、横 180cm、堤等琳作。
17	S61. 11. 1	絹本着色釈迦涅槃図	入間川 2-3-11	徳林寺	釈迦が亡くなったときに、弟子や諸王らが嘆き悲しんでいる姿が描かれている。縦 177.5cm、横 104cm。
18	S61. 11. 1	絹本着色釈迦八相図	入間川 2-3-11	徳林寺	釈迦の生涯における主要な事跡を、絹本着色釈迦涅槃図と合わせて八つとなるように描いたもの。縦 188.5cm、横 105cm。
19	S61. 11. 1	紙本着色両界曼荼羅	上奥富 354	瑞光寺	金剛界曼荼羅と胎藏界曼荼羅からなる二幅の絵画で、和紙に彩色で描かれている。いずれも、縦 90.5cm、横 81cm。

20	S61. 11. 1	紙本地蔵十王図付他 二幅	根岸 2-5-1	明光寺	十王、地蔵菩薩、脱衣婆、修羅の図を合わせて 十三幅からなる仏画。いずれも、縦 93cm、横 39cm。
----	------------	-----------------	-------------	-----	--

ウ 彫刻

No.	指定 年月日	名称	所在地	所有者 (管理者)	概要
21	S51. 4. 1	慈眼寺阿弥陀如来像	入間川 1-9-37	慈眼寺	ケヤキの一木造。均衡のとれた姿をし、豊かな顔立ちをしている。像高 73cm。
22	S61. 11. 1	木造聖観世音菩薩坐像	北入曾 1366	常泉寺	観音堂の本尊。左手はつぼみの蓮華を持ち、右手は掌を開いて施無畏印を結んでいる。寄木造、像高 54cm。
23	S61. 11. 1	木造地蔵菩薩立像	南入曾 460	金剛院	左手に宝珠、右手に錫杖を持ち、顔立ちは豊かで穏やかである。寄木造、像高 79cm。
24	S61. 11. 1	銅造聖観世音菩薩立像	柏原 1027	円光寺	通肩の法衣を着て、頭髮は宝髻（ほうけい）に結び、左手に蓮華のつぼみを持ち、右手は施無畏印を結んでいる。像高 41.5cm、全体高 48cm。
25	S61. 11. 1	木造不動明王及び二童子立像	柏原 2492	永代寺	両眼を大きく開き、右手に剣、左手に索を持った不動明王が、二童子を従えた一組の像である。不動明王の像高 72.2cm、二童子の像高 41.7cm。
26	S61. 11. 1	木造千手観世音菩薩坐像	広瀬 2-20-1	禪龍寺	11 面 42 手を持ち、光背は舟形の透かし彫りで、雲の中に 11 面の円鏡が散りばめられている。像高 64.6cm。
27	S61. 11. 1	木造宝冠釈迦如来坐像	笹井 2-17-8	宗源寺	口元から少し白い歯をのぞかせていることから、歯仏とか微笑釈迦牟尼仏ともいわれている。像高 38cm。
28	H29. 2. 1	木造薬師三尊像並びに十二神将像	東三ツ木 8-1	天岑寺	薬師如来坐像は応永 6 年（1399）常仁の作で寄木造、十二神将像は一木造で、作風から、鎌倉時代後半から室町時代にかけて鎌倉を中心に流行した様式のものと考えられる。日光・月光菩薩像も一木造だが、他の像と違い、江戸時代前期のものと考えられる。

エ 工芸品

No.	指定 年月日	名称	所在地	所有者 (管理者)	概要
29	S51. 4. 1	梅宮神社鱧口	上奥富 508	梅宮神社	鱧口は、下方に大きな割れ目があり、布縄で参拝者がたたき鳴らす丸型の鳴器のこと。現在は片側のみ残っている。青銅製、直径 14cm。
30	S61. 11. 1	御正体（懸仏）	柏原 1153	柏原白鬚神社	全部で 5 面ある。大小の違いはあるものの、青銅の铸件で円鏡型をなし、十一面観世音菩薩像が鋳出されている。
31	S61. 11. 1	大水作鎗	柏原	個人蔵	柏原の鎗鍛冶師、増田大水の作で、「武州柏原住大水作」という銘文が刻まれている。全長 67.8cm、穂先の長さ 23.5cm。

32	S61. 11. 1	神輿	広瀬 2-23-1	広瀬神社	宝形造で、屋根の頂上には鳳凰が立つ、豪華絢爛な神輿。下框の長さ 122cm、屋根上鳳凰までの高さ 228cm。
33	H29. 2. 1	堀兼神社(富士浅間社) 本殿厨子附 棟札一枚	堀兼 2220	堀兼神社	本殿厨子は、黒漆塗りで、前面の扉や梁に、当時流行した意匠や図柄が彫り込まれ、江戸時代前期から中期ごろの武蔵国農村地域の宗教建築の特徴を残している。また、本殿建立の経過が棟札に記載され、神社の歴史が明らかになった。
34	R1. 7. 1	注口付き壺型土器	稲荷山 1-23-1 博物館	狭山市	加曾利EⅡ式期の注口土器事例としては、県内では類がない。また、土瓶形、急須形に定形化する縄文時代後・晩期(約4,000～2,500年前)以前の資料で、器形が後期土瓶形注口土器の系譜上にあることを示唆しており、注口土器の変遷を考えるうえでも非常に重要な資料といえる。

オ 書跡

No.	指定年月日	名称	所在地	所有者(管理者)	概要
35	S52. 9. 1	梅宮神社神号	上奥富 508	梅宮神社	「梅宮神社」と彫られた部分に白色塗装が施された木製額。筆者は、儒学者・亀田鵬斎。縦 43.7cm、横 115.6cm。

カ 古文書

No.	指定年月日	名称	所在地	所有者(管理者)	概要
36	S51. 4. 1	広瀬村境界絵図面及び分見野帳	広瀬	個人蔵	江戸期、入間川が氾濫するたび兩岸の村との境界が不明瞭となり、その境界をはっきりさせるために、この図が作られた。

キ 無形文化財

No.	指定年月日	名称	所在地	所有者(管理者)	概要
37	S52. 9. 1	笹井豊年足踊り	笹井 1962 笹井白鬚神社	笹井豊年足踊り保存会	笹井囃子の演目の1つ。一人の演者が仰向きに寝て両足を立て、足の甲に面(ひょっとこ・おかめ)をつけ、衣装を着せ、囃子に合わせて演じるものである。

ク 無形民俗文化財

No.	指定年月日	名称	所在地	所有者(管理者)	概要
38	S46. 4. 1	八幡神社鹿子舞	入間川 3-6-14 八幡神社	入間川鹿子舞保存会	神仏分離政策のとき「獅子でなく鹿子である」といって禁をまぬがれたといわれ、「各盞の儀」と呼ばれる儀式が行われるのも特徴である。

39	S52. 9. 1	広瀬囃子	広瀬 2-23-1 広瀬神社	広瀬囃子 連	江戸末期、笛の村木佐平、天狐の飯島喜十郎を中心におこり、県内では珍しい神田古囃子を今に伝えている。
40	S52. 9. 1	入曽囃子	北入曽 274-1 野々宮神社	入 曽 囃 子 保存会	地元の里神楽を土台に、江戸徳丸より芸人を招き、田口保明など土地の有志に伝授され始まったといわれている。
41	H9. 6. 2	広瀬浅間神社の 火まつり	上広瀬 983-2 富士浅間神社	水 富 ㊟ 講 中	養蚕の豊作、安産、富士山の鎮火を祈願するために行われる。祭の中心となる「お焚き上げ」は、桑の枝を円柱状に束ねた大・小のたいまつを燃やすもので、近隣には見られない大変貴重なものである。
42	H9. 6. 2	お諏訪さまの なすとつかえ	入間川 4-2-41 諏訪神社	社 務 所 管 理委員会	自作のなすを奉納し、神前に供えてある別のなすをもらって帰り食べると、暑気あたりなど疫病一切に霊験あらたかとされている。
43	H15. 11. 4	西方囃子	奥富地区	西 方 囃 子 保存会	江戸時代に入曽囃子より伝わり、江戸神田囃子の流れをくむ。大正年間、一時途絶えた入曽囃子に逆に伝授したといわれている。
44	H15. 11. 4	柏原祇園囃子	柏原地区	柏 原 郷 土 芸能会	入間市高倉から伝えられた市内唯一の祇園囃子。柏原八坂神社の「天王さま」の夏祭り等で上演されている。
45	H17. 12. 1	上赤坂獅子舞	上赤坂地区	上赤坂獅子 舞保存会	一人立ち三頭のササラ獅子舞。古い太鼓の内側には「安永2年(1773)9月修理」と記されていた。

ケ 有形民俗文化財

No.	指定 年月日	名称	所在地	所有者 (管理者)	概要
46	S48. 3. 1	天岑寺月待供養の碑	沢 5-34	天岑寺	幅 40cm、高さ 131cm という大型の板碑で、阿弥陀三尊来迎図が描かれている。市内に約 300 基ある板碑の中でも代表的なものである。
47	S61. 11. 1	絵馬「子返しの図」	柏原 1153	柏 原 白 鬚 神社	「間引き」(口べらしのために親が生児を殺すこと)をいましめるために奉納されたもの。木製額型で、縦 44.3cm、横 81.7cm。「陰陽和合図」と一対と考えられる。
48	H25. 2. 1	絵馬「陰陽和合図」	柏原 1153	柏 原 白 鬚 神社	富士信仰に基づく産育や孝行の思想を絵解きする内容の絵馬。木製額型で、縦 44.3cm、横 81.7cm。「子返しの図」と一対と考えられる。

コ 史跡

No.	指定 年月日	名称	所在地	所有者 (管理者)	概要
49	S48. 3. 1	清水濱臣の墓	狭山 531	天岑寺	濱臣は江戸中期の高名な国学者。父・道円が、川越在田中村(現・狭山市狭山)の出身という関係で安穩寺(廃寺)跡に墓がある。
50	S52. 9. 1	清水八幡	入間川	八幡神社	入間河原で源頼朝の追手に討ち果たされた、清水

			3-35-9		冠者義高（源義仲の嫡子）をまつるために造られたと伝えられている。
51	S50. 3. 1	生越道々標	下奥富 496-3	狭山市	昔は武蔵野の一本松道標と呼ばれた。石造角柱型の4面には東西南北と刻まれ、それぞれの行き先地が書かれている。
52	S48. 3. 1	城山砦跡	柏原 2346-2 他	小谷野家・ 早川家・狭 山市	市内唯一の中世城郭で、別名「上杉砦」ともいわれる。「川越夜戦」で上杉憲政などが陣を敷いたと伝えられている。
53	S51. 4. 1	今宿遺跡	広瀬台 1-22	狭山市	縄文早期から奈良・平安時代（弥生を除く）の住居跡や古墳が数多く見つかっており、その内の住居跡3軒が保存（1軒は復元）されている。
54	S52. 9. 1	影隠地藏	柏原 204-1	狭山市	源頼朝の追手に追われた清水冠者義高が、この地藏尊の影に隠れて難を逃れた、との言い伝えがある。
55	S55. 6. 2	清水宗徳之墓	上広瀬 976 付近	清水家	清水宗徳は、機械製糸工場の開設、入間馬車鉄道の敷設などを行い、県議会議員・衆議院議員としても地域発展のために貢献した人である。
56	H18. 12. 1	旗本小笠原家墓所	沢 1120-1	天岑寺	天岑寺を開基した小笠原氏 12 代にわたる家族の墓所。宝篋印塔・笠付角柱型墓石など 43 基の墓塔がある。
57	H25. 2. 1	下水野の地藏尊	南入曾 63-1 先	狭山市	水野の新田開発にかかわり亡くなった人を供養するとともに、その子孫の現世と来世の安楽を願って造られたと考えられている。

サ 天然記念物

No.	指定 年月日	名称	所在地	所有者 (管理者)	概要
58	S48. 3. 1	羽黒神社菩提樹	加佐志 174	羽黒神社	シナノキ科落葉高木で、6・7月頃淡黄色の花が咲き、葉の裏に直径 8mm ほどの実を結ぶ。高さ約 10m、幹周り約 1.9m、樹齢約 550 年。

(3) 国登録有形文化財

No.	登録 年月日	名称	所在地	所有者 (管理者)	概要
1	H30. 11. 2	東京ゴルフ倶楽部クラブハウス	柏原 1957-5	東京ゴルフ倶楽部	建築家アントニン・レーモンドによる設計で、レーモンドの作風が顕著に現れた円熟期の秀作と評価されている。

2 狭山市内の遺跡一覧・遺跡分布図

【狭山市内遺跡一覧（括弧内は県遺跡番号）】

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 東八木窯跡群 (22049) 奈・平 | 35 宮原遺跡 (22017) 縄 (前～後) |
| 2 八木遺跡 (22068) 縄 (前・中)、奈・平 | 36 下双木遺跡 (22078) 縄 (草) |
| 3 八木北遺跡 (22021) 奈・平 | 37 上双木遺跡 (22077) 縄 (中・後)、奈・平 |
| 4 八木上遺跡 (22022) 縄 (前・中)、奈・平 | 38 上広瀬西久保遺跡 (22073) 奈・平 |
| 5 沢口上古墳群 (22020) 古 (後) | 39 西久保遺跡 (22069) 先、縄 (草)、奈・平 |
| 6 笹井古墳群 (22019) 古 (後) | 40 東久保遺跡 (22070) 先 |
| 7 沢口遺跡 (22080) 縄 (早～中)、古、奈・平 | 41 上諏訪遺跡 (22086) 縄 (中・後) |
| 8 宮地遺跡 (22018) 縄 (中)、奈・平 | 42 滝祇園遺跡 (22066) 縄 (草～後)、古、奈・平 |
| 9 金井遺跡 (22071) 中 | 43 峰遺跡 (22024) 縄 (中・後)、奈・平 |
| 10 金井上遺跡 (22023) 縄 (草・前)、奈・平、中 | 44 戸張遺跡 (22026) 縄 (前・中)、奈・平 |
| 11 上広瀬上ノ原遺跡 (22007) 縄 (草)、奈・平 | 45 揚樋木遺跡 (22027) 縄 (前・中)、奈・平 |
| 12 霞ヶ丘遺跡 (22004) 縄 (中)、奈・平 | 46 坂上遺跡 (22030) 縄 (中)、奈・平 |
| 13 今宿遺跡 (22002) 縄 (早～中)、奈・平 | 47 稲荷上遺跡 (22032) 縄 (前・中)、奈・平 |
| 14 上広瀬古墳群 (22001) 古 (後) | 48 上中原遺跡 (22039) 先 |
| 15 森ノ上西遺跡 (22079) 先 | 49 中原遺跡 (22038) 縄 (早～後)、奈・平 |
| 16 森ノ上遺跡 (22008) 縄 (中) 奈・平 | 50 沢台遺跡 (22079) 縄 (中)、奈・平 |
| 17 富士塚遺跡 (22009) 縄 (中) 奈・平 | 51 沢久保遺跡 (22041) 縄 (中) |
| 18 鳥ノ上遺跡 (22010) 奈・平 | 52 下向沢遺跡 (22042) 縄 (中・後)、奈・平 |
| 19 小山ノ上遺跡 (22011) 縄 (中・後)、古～中 | 53 吉原遺跡 (22067) 縄 (前) |
| 20 御所の内遺跡 (22012) 奈・平 | 54 下向遺跡 (22085) 縄 (前～後) |
| 21 英遺跡 (22074) 奈・平、中 | 55 台遺跡 (22084) 縄 (前～後) |
| 22 城ノ越遺跡 (22013) 縄 (前・中)、奈・平、中 | 56 稲荷山公園古墳群 (22052) 古 (後) |
| 23 宮ノ越遺跡 (22016) 縄 (前・中)、奈・平 | 57 稲荷山公園遺跡 (22051) 縄 (中) |
| 24 字尻遺跡 (22075) 縄 (前～後)、奈・平 | 58 石無坂遺跡 (22083) 縄 (中) 奈・平 |
| 25 丸山遺跡 (22037) 縄 (早・前～後) 奈・平 | 59 富士見西遺跡 (22082) 縄 (中)、奈・平 |
| 26 金井林遺跡 (22035) 縄 (前～後) | 60 富士見北遺跡 (22072) 縄 (前・中)、奈・平 |
| 27 鶴田遺跡 (22044) 縄 (前・中) | 61 富士見南遺跡 (22081) 縄 (中) |
| 28 上ノ原東遺跡 (22065) 奈・平 | 62 町屋道遺跡 (22088) 縄 (前～後)、奈・平 |
| 29 上ノ原西遺跡 (22063) 縄 (中) | 63 七曲井 (22046) 中 |
| 30 半貫山遺跡 (22061) 中 | 64 堀兼之井 (22047) 中 |
| 31 稲荷山遺跡 (22058) 縄 (後) | 65 八軒家の井 (22076) 中 |
| 32 前山遺跡 (22059) 縄 (中) | 66 八木前遺跡 (22087) 縄 (前・後) |
| 33 高根遺跡 (22062) 縄 (早・中・後) | 67 堀難井遺跡 (22089) 中 |
| 34 町久保遺跡 (22034) 縄 (中)、奈・平、中 | |

※先：先土器時代、縄：縄文時代、古：古墳時代、奈・平：奈良・平安時代、中：中世



IV 報告等

1 新指定文化財関係資料

(1) 諮問

狭教社発第199号
平成30年11月1日

狭山市文化財保護審議会
委員長 高橋光昭 様

狭山市教育委員会
教育長 向野康雄

市指定文化財の新指定について（諮問）

このことについて、狭山市文化財保護条例第5条第4項の規定により、貴審議会の意見を求めます。

記

1 諮問する指定候補文化財

- (1) 種別 有形文化財（考古資料）
- (2) 名称 注口付き壺形土器
- (3) 員数 1点
- (4) 出土地 狭山市大字下奥富字稻荷上地内 稻荷上遺跡
- (5) 管理者 狭山市

2 諮問理由

市内出土の考古資料のうち、上記資料は県内でも類例がなく、狭山市にとって重要な文化財であり、市指定文化財として指定し、その保存及び保護を図ってよろしいか諮問します。

3 指定候補文化財の概要

本指定候補文化財は、平成14年度に小学校建設に伴う稲荷上遺跡第6次発掘調査で出土したものである。稲荷上遺跡は、入間川右岸の狭山市下奥富地内に所在する縄文時代前期・中期及び奈良・平安時代の集落遺跡で、過去6回の調査が実施されている。第6次調査で検出された遺構には、縄文時代前期の竪穴住居跡5軒、同中期の竪穴住居跡25軒、時期不明の竪穴住居跡7軒、単独埋甕6基、奈良・平安時代竪穴住居跡2軒、同掘立柱建物跡1棟、両時代の土壇49基などがある。縄文時代前期の集落は、住居跡が線的に分布し、中期の集落は環状に展開し、新しい時期になるほど外側に位置する傾向がみられる。

本文化財は、第6次調査区の中央やや北側に位置する中期後半（約4,500年前）の第56号住居跡の床面上で発見された。

器形は壺形を呈する（別紙実測図参照）。底部は小さめであるが、安定している。口縁部と胴

部の一部及び注口部先端を欠く。法量は、器高22.7cm（注口部高さ20.7cm）、口径14.3cm、胴部最大径22.0cm、底径7.7cm、器厚0.7～1.6cmを測り、注口土器としては比較的大形である。無文の口縁部はやや外傾し、口縁部の内側に稜を有し、口唇部に撚糸文を施す。口縁部直下には、断面台形の鏝を巡らしている。胴部上半部の文様は、地文に撚糸文を施した後に、6単位の方形区画に分割し、各区画内に縦位の平行沈線文3単位、十字文1単位、地文のみ1単位、湾曲した注口1単位が配置されている。注口には全体に襷状の沈線文が施されている。これらの文様は竹管を半裁し、その内面を使用して描かれている。

本文化財は、縄文時代中期後半の注口土器として、文様や地文の施文等、当該時期の制作技法が明確であるうえに、狭山市周辺地域のみならず県内で類例がなく、非常に貴重な資料といえる。

(2) 答申

平成31年3月12日

狭山市教育委員会
教育長 向野康雄様

狭山市文化財保護審議会

委員長 高橋光昭

市指定文化財の新指定について（答申）

平成30年11月1日付、狭教社発第199号で諮問のありましたこのことについて、下記のとおり指定することが妥当であると認め、答申いたします。

記

1 狭山市指定文化財候補

- (1) 種別 有形文化財（考古資料）
- (2) 名称 注口付き壺形土器
- (3) 員数 1点
- (4) 出土地 狭山市大字下奥富字稻荷上地内 稻荷上遺跡
- (5) 管理者 狭山市

2 指定理由

本文化財は、縄文時代中期後半（約4,500年前）の所産で、加曽利EⅡ式土器に比定される。

口縁部は、やや外傾し、口唇部に地文を施し、直下に断面台形の鏝を巡らしており、有孔鏝付土器にも似ている。主文様は上半部に施す。撚糸地文を施文後、平行沈線（半裁竹管内面）で描いている。下半部から底部にかけては無文で、丁寧な磨きを施している。

注口土器は縄文時代中期中頃（約5,000年前）に深鉢、浅鉢に注口が付けられるよ

うになり、中期後半には注口付浅鉢が東北地方南部周辺で盛んに作られるようになる。同時期に壺形の注口土器が散見される。本文化財は、その時期のものであるが、加曾利EⅡ式期の注口土器事例としては、県内では類例がない。また、土瓶形、急須形に定形化する縄文時代後・晩期（約4,000～2,500年前）以前の資料で、器形が後期土瓶形注口土器の系譜上にあることを示唆しており、注口土器の変遷を考えるうえでも非常に重要な資料といえる。以上の点から、市指定文化財に指定するのが妥当である。

(3) 平成31年第3回教育委員会議案
議案第11号

狭山市指定文化財の指定について

次のとおり、狭山市指定文化財に指定したいので、狭山市文化財保護条例（昭和51年条例第25号）第5条第1項の規定により、教育委員会の議決を求める。

記

名 称	注口付き壺形土器
種 別	有形文化財（考古資料）
員 数	一個
出土地	狭山市大字下奥富字稻荷上地内 稲荷上遺跡
所有者	狭山市教育委員会
管理者	狭山市教育委員会（社会教育課）
特 徴	本文化財は、縄文時代中期後半（約4,500年前）の所産で、加曾利EⅡ式土器に比定される。 口縁部は、やや外傾し、口唇部に地文を施し、直下に断面台形の鏝を巡らしてあり、有孔鏝付土器にも似ている。主文様は上半部に施す。撚糸地文を施文後、平行沈線（半裁竹管内面）で描いている。下半部から底部にかけては無文で、丁寧な磨きを施している。 注口土器は縄文時代中期中頃（約5,000年前）に深鉢、浅鉢に注口が付けられるようになり、中期後半には注口付浅鉢が東北地方南部周辺で盛んに作られるようになる。同時期に壺形の注口土器が散見される。本文化財は、その時期のものであるが、加曾利EⅡ式期の注口土器事例としては、県内では類例がない。また、土瓶形、急須形に定形化する縄文時代後・晩期（約4,000～2,500年前）以前の資料で、器形が後期土瓶形注口土器の系譜上にあることを示唆しており、注口土器の変遷を考えるうえでも非常に重要な資料といえる。以上の点から、市指定文化財に指定するのが妥当である。

平成31年3月26日提出

狭山市教育委員会教育長 向 野 康 雄

提案理由

狭山市文化財保護審議会から狭山市指定文化財として指定すべきものとの答申を受けた有形文化財（考古資料）について、これにふさわしいと判断されたことから、新たに市指定文化財に指定するにあたり、教育委員会の議決を得たいので、この案を提出するものである。

（４）平成31年第3回教育委員会会議録

議案第11号 狭山市指定文化財の指定について

狭山市文化財保護審議会から狭山市指定文化財として指定すべきものとの答申を受けた有形文化財（考古資料）について、これにふさわしいと判断されたことから、新たに市指定文化財に指定するため、提案がなされたものである。

議案第11号については、原案可決した。

（５）告示

狭山市教育委員会告示第7号

狭山市指定文化財の指定について

狭山市文化財保護条例(昭和51年9月30日条例第25号)第5条第1項の規定により、狭山市指定文化財として次のとおり指定する。

令和元年7月1日

狭山市教育委員会

指 定 番 号	狭文指第52号
種 別	有形文化財（考古資料）
名 称	注口付き壺型土器
所 在 地	狭山市稲荷山1丁目23番1号
所 有 者	狭山市入間川1丁目23番5号 狭山市長

2 博物館収蔵資料調査報告

930175・930176 笹井観音堂「観音堂寺記」関係文書

吉 田 弘

(1) はじめに

今回の資料は、狭山市立博物館に収蔵されているもので、狭山市下奥富にあった修験寺院東林寺に伝わった古文書群の内の2資料である。この資料は、狭山市笹井にあった修験寺院笹井観音堂に所蔵され、その由緒を伝えている「観音堂寺記」に係るもので、これの案文にあたるものである。「観音堂寺記」については、すでに「笹井家文書」として、『狭山市史中世資料編』にて活字化され、知られている資料であるが、その成立には、観音堂の配下寺院である東林寺が深く関わっており、「観音堂寺記」の成立と、観音堂とその配下寺院東林寺の関係性が理解できる資料として、注目される資料である。

※今回の資料を比較する上で、便宜的に、「観音堂寺記」正本(『狭山市史 中世資料編』所収 p25～28)を資料A、「法脈 案」(資料番号 930175)を資料B、「(無題)」(資料名 笹井観音堂文書 資料番号 930176)を資料Cとする。

(2) 資料所見

まず、紹介する2資料の参考として、資料A:「観音堂寺記」正本(『狭山市史 中世資料編』所収 p25～28)について、その体裁については、堅帳冊子体で、内容については、前書にあたる由緒書、由緒書を補足する添書、住職代々の法脈から構成されている。文体については、由緒書では寺院文書の文体として七字一行の漢文体、添書では、公文書の文体として御家流で法脈では、「高祖役小角」から始まり、「〇〇世(代)、〇〇(僧名)、(寂年月日)」を列記するという形式で記載されている。年代については、由緒書には「式拾式世 行阿」の記名があり、寂年が「久安六(1150) 庚午天十一月二日」と法脈に記載されていること、添書に「天明年間(1781～1789)」に新たに書き直して「森御殿」(聖護院門跡の通称)に納めたことから推定することができる。

次に、資料B:「法脈 案」(資料番号 930175)については、体裁、内容、文体等ほぼ資料A同様で、由緒書が十字一行の漢文体となっている。細かい点を見ていくと、由緒書では、一字単位程度の加筆、削字、訂正が見られるが、概ね資料Aの文章と一致し、送り仮名、返り点、熟語線等の読み下しのための補助表記が加えられている。また、添書では、文意は概ね資料Aと同様だが、校閲の書き込みが顕著で、聖護院門跡への書面として、推敲が重ねられたことがわかる。また、法脈では、元本からの転記の際の誤字等の訂正が見られ、年代では、資料A同様、添書に「天明年間」の記述があること、法脈に、「五十一世良賀」と「五十二世良盛」の寂年月日(命日)が未記載であることから、両人が存命中であることが類推できる。これについては、資料Aでは、良賀が「享和二(1802) 壬戌三月十五日寂」、良盛が「文政二(1819) 丁卯十二月七日寂」との記載があることから、この案文が享和二年以前に作成されたと理解できる。

資料C:「(無題)」(資料名 笹井観音堂文書 資料番号 930176)については、体裁について、横長継紙巻上げで、訂正の書き込みがあることから案文であり、内容について、概ね資料A、B同様であるが、末尾に「口上」が添えられている。文体については、御家流で書かれており、当時の公文書としての形式を踏襲しているが、文中、「有」等の、いわゆる「返り文字」の表記に不適切な部分が所々に見られ、案文の作成者が御家流の文体には不慣れであることがわかる。また、特に表題については立ててはいないが、「口上」の記述の中に、「差上申」

の記述があることから、「一札」の形式を用いて聖護院門跡へ報告しようとしたものと理解できる。年代では、ここで初めて「天明七(1787)丁未七月」という具体的な案文の作成時期が明記されている。

(3) 考察

これらの資料は、資料所見から見た関係性から、資料C→資料B→資料Aという時間経過を推定することができる。資料Cは、文書形式が御家流の文体であることと、資料末尾の「口上」にて、「御急ニ御座故、早々下書付差上申候間、若落字等も御座候哉、両御役僧方御立会ニ而、能々御改被成候」として、急いで書付を作成し上申したので、落字等もあるかもしれないので、御役僧方が立会の上、御改めいただきたい旨書き記していることから、東林寺がこの案文を作成し、観音堂大先達の両御役僧に校正を申し入れたことがわかる。

こうして、資料Cの浄書した文書により作成された案文が資料Bと考えられる。資料Bは、資料Cと比較して綿密な校訂が加えられ、由緒書についても、一字単位程度の加筆、削字、訂正が見られるだけである。ただ添書には、かなりの訂正が見られ、ここでも聖護院門跡へ提出する上での配慮が垣間見える。資料Bの内容から、観音堂大先達の両御役僧は、この案文を校正し、さらに聖護院門跡へ提出する上で、書面の形式を「法脈」とし、由緒書については寺院文書の文体に合わせた漢文体に体裁を改め、資料Bを作成したと考えられる。

そして、正文として完成したものが資料Aである。資料Aは、資料Bにおける訂正部分も補訂され、本山派聖護院末二十七先達の一である笹井観音堂の「法脈」を伝える「観音堂寺記」としての体裁が整った形式となっている。

ここで興味深いのは、資料Bの添書により「観音堂寺記」の最終校正にあたり、「金峯山東林寺教純」と「八幡山福泉寺東彦」が連署されていることにより、両者が「観音堂寺記」の執筆に携わっていたことが理解できる。

東林寺は、観音堂の配下寺院の中では、指導的立場にあり、その住職である教純は、その有識から「観音堂寺記」の案文を作成したが、その完成にあたり、観音堂と古くから関わりのある「八幡山福泉寺東彦」に校正を依頼し、「観音堂寺記」の内容を精査したと考えられる。

福泉寺は、その所在が多摩郡久米川とも入間郡久米とも云われる修験寺院で、その開創は定かではないが、文亀三年(1502)には熊野神社関係文書に記載があり、文明十八(1486)年、聖護院門跡道興が東国に下向した際の記録である『廻国雑記』にも笹井観音堂とともにその存在が知られている寺院である。このような関係から、「観音堂寺記」の成文化にあたり、東林寺教純の案文について、福泉寺の校正を求めたものと考えられる。観音堂周辺で『廻国雑記』以来の古刹である福泉寺を介在させることにより、「観音堂寺記」に内容についての客観性を求めたものと理解できる。

(4) 背景

「観音堂寺記」の再編の背景としては、寛政十一(1799)年に予定された役行者御遠忌千百年に際し、修験本山派の組織内の再整備を図るため、配下寺院の縁起、系譜等を書面で提出することを求めたものと考えられる。役行者御遠忌千百年の事業は、修験の開祖に対する祭祀であり、宗派開創以来稀にみる一大行事であり、並々ならぬ準備が施されたと考えられる。そして、その準備の過程として、天明七(1787)年以前から本山派の組織内で動きがあったことは、当該資料からも伺えるところである。

また、時の光格天皇は、生後聖護院門跡を継承する立場であったことも含め、この一大行事について本山派に理解を示し、この御遠忌にあたり、役行者に「神変大菩薩」という称号を授けることとなる。このことにより、「妖言衆を惑わす」といわれ、伊豆島に遠流された役行者は、「神変大菩薩」という称号を授かることにより、過去の汚名が返上され、この後「神」として

あがめられることとなる。このような背景を物語る地域の資料として、この2資料の価値を知ることができる。

(5) 翻文

A「観音堂寺記」(『狭山市史 中世資料編』所収 p25~28)

夫仏道之東漸于日域也、邈矣、而天地未分前既此道存矣、神仏不二、渾然一理也、名山大川不能無神、既有神則不能無靈、靈妙者神之用也、道者体也、而体用不二、臨機応変各現其靈亦唯、為度衆生也、茲滝音山観音堂者、往昔人皇四十二代、文武天皇之御宇、高祖役小角、修行諸山到于相州八菅山欲眺望武野、經過于〔斯〕、者微声髣髴、于樹間、梢聞則協頌文之韻、小角就見之、則山中瀑布水之声也、其文曰、無垢靈場、大悲心水、沐浴罪滅、六根清浄、小角奇焉、乃跌座崑下、合掌良久矣、既入定、忽異香薰四方、光明赫赫、小角驚仰瞻之、則不動明王、身出智火、儼然現瀑布水之上也、即向小角白、予待汝年久矣此地者縁之衆生多矣、彫刻我形云終失其所在、迺隨靈諭彫刻不動尊一像乃建一石堂安置焉、創立之権輿以聞滝音、而教其甲弟子長岳守護焉、長岳於優婆塞之戒法六波羅蜜之修行、拳拳服膺、無有敢一時之怠慢、而伝法於嫡弟子長元、長元以還、優婆塞之修行嫡嫡相統、自長岳至行阿二十代、雖汲高祖役小角之法流、法衰修行怠弛、而七十四代、鳥羽帝之御宇、永久年中、園城寺行尊、欲再開小角之旧迹、経歴諸山、下東方、為訪高麗明神之旧祠、路出于此、即逢行阿尋其所由且拝謁小角真作之不動尊、亦出自自小角嫡嫡伝授之密咒秘訣、付屬於行阿、且曰吾瞻此地之形勢、連山羅列于西北、如波濤奔走、河流当南蒼波澹然東則武野原千里之眺望、実覚非人境、是則謂四神相応之地而吾年来所、羨慕、自其所、負来笈中、出十一面觀世音、建一字安置焉、是則村上帝之守本尊而、唐人之所作也云、亦勸請白山権現、為伽藍守護神、郷擬大峯之小篠、号篠井、自是后行尊当称中興開山者也、

滝音山二十二世

行阿誌

天明年中、從御門主、〔下教令督〕由緒法脈世代等、然〔旧書有錯簡文字〕虫喰泯滅、而〔不可弁別者不少〕、依是東林寺・福泉寺〔相議檢校〕焉、以奉上覽、〔蔵〕森御殿御宝蔵由也、

金峯山 東林寺教純

八幡山 福泉寺東彦

(以下、法脈世代六十世(略))

※資料A中、〔 〕内の字句は資料Bを受け校正されている。

B「法脈 案」(資料番号 930175)

夫仏道之東漸于日域也、邈矣、而天地未分前既此道存矣、神仏不二、渾然一理也、名山大川不能無神、既有神則不能無靈、靈妙者神之用也、道者体也、而体用不二、臨機応変各現其靈亦唯、為度衆生也、茲滝音山観音堂者、往昔人皇四十二代、文武天皇之御宇、高祖役小角、修行諸山到于相州八菅山欲眺望武野、經過于此、有微声髣髴、于樹間、梢聞則協頌文之韻、小角就見之、則山中瀑布水之声也、其文曰、無垢靈場、大悲心水、沐浴罪滅、六根清浄、小角奇焉、乃跌座崑下、合掌良久矣、既入定、忽異香薰四方、光明赫赫、小角驚仰瞻之、則不動明王、身出智火、儼然現瀑布水之上也、即向小角白、予待汝年久矣此地有縁之衆生多矣、彫刻我形云終失其所在、迺隨靈諭彫刻不動尊一像乃建一石堂安置焉、創立之権輿以聞滝音、故山号滝音而教其甲弟子長岳守護焉、長岳於優婆塞之戒法六波羅蜜之修行、拳拳服膺、無有敢一時之怠慢、而伝法於嫡弟子長元、長元以還、優婆塞之修行嫡嫡相統、自長岳至行阿二十代、雖汲高祖役小角之法流、法衰修行怠弛、而七十四代、鳥羽帝之御宇、永久年中、園城寺行尊、欲再開小角之旧迹、経歴諸山、下東方、為訪高麗明神之旧祠、路出于此、即逢行阿尋其所由且拝謁小角真作之不動、亦出自自小角嫡嫡伝授之密咒秘訣、付嘱於行阿、且曰吾瞻此地之形勢、連山羅列

于西北、如波涛奔走、河流当南蒼波澹然東則武野原千里之眺望、実覺非人境、是則謂四神相応之地而吾年来所、羨慕、自其所、負来笈中、出十一面觀世音、建一字安置焉、則是村上帝之守本尊而、唐人之所作也云、亦勸請白山権現、為伽藍守護神、郷擬大峯之小篠、号篠井、自是后行尊当称中興開山者也、

滝音山二十二世

行阿誌

天明年中、從御門主、由緒法脈世代等御尋有之、然處本書虫喰等有之文字泯滅して、錯簡多シ故ニ東林寺・福泉寺相談ヲ以相改差上候通り尤森御殿御宝蔵ニ納候由也、

金峯山 東林寺教純

八幡山 福泉寺東彦

(以下、法脈世代五十二世(略))

C「(無題)」(資料名 笹井觀音堂文書 資料番号 930176)

武州高麗郡篠井村滝音山白山寺觀音堂者滝音山白山寺觀音堂者往昔 仁王四拾二代文武天皇御宇、高祖役小角相州八菅山御修行之砌武蔵野御一見被遊候間、今之滝音山ニ至給時頌文之響有、小角御立寄御覽有二山中之滝音也、無垢靈場、大悲心水、沐浴罪滅、六根清浄、与響落故、小角不思議ニ思召、滝之元ニ端座合掌而漸定ニ入給へ者、不動明王滝上ニ出現座而小角ニ告曰、汝待事年久シ此地有縁之衆生有シ者、我ガ形ヲ彫刻而安置セヨ与、小角任靈諭御長九寸之不動尊一躰御彫刻有、一字之石堂ヲ立不動尊越安置しなり、奉安置不動尊ヲ滝ノ音ヲ被聞召御建立有故ニ滝音山与号シ御弟子長岳与(云)申行者ニ守護被仰付、長岳優婆塞之戒法六波羅蜜之修行、專ラ相守、弟子長元ニ法ヲ伝へ、長元以来優婆塞之修行嫡々相続、長岳方~~貳拾~~貳拾貳代目之行阿ニ至而者、高祖小角之法流ヲ雖汲、法衰へ修行懈怠ニ及、然ニ 仁王七拾四代鳥羽院之御宇永久年中、園城寺行尊、高祖小角之旧跡ヲ再新シ而諸山ヲ開給時、高麗明神之旧跡御一覽之思召ニ而、此地至給テ、行阿被成対證、往昔 高祖小角之開~~發~~基殊ニ御~~自~~正作之不動尊御躰有、其上高祖小角之御参伝有、秘事等御再伝有、此地者我年来願処之地也、南大河、北西ニ山、東ニ道有、四神相応之地成者笈仏之十一面觀世音者、村上天皇守本尊唐仏之尊像也、此地ニ奉安置進一字造宮有、觀世音菩薩ヲ安置シ伽藍守護神ニ白山権現ヲ勸請有、滝音山白山寺觀音堂与唱へ、隣【泉+亥】ヲ大峯ノ准へ小篠ニ、篠井村与名付給由、依之行尊行尊ヲ中興開山ニ称シ、行阿ハ~~貳拾~~貳代目相続シ、中興開山行尊方~~貳拾貳代~~四代目良~~空~~代天正拾九年十一月從 神君家康公 ~~御朱印~~拾石之御朱印被下置当現住良盛迄中興開山行尊方~~三拾~~貳世 高祖御開~~基~~基方~~五拾九~~世五拾二世修驗道相続仕候、~~世代左之通~~御座候由緒之儀右之通ニ御座候、世代之儀者左之通御座候、然共忝敷儀者先年乱世之砌紛失仕候故、法流世代為増如此御座候以上、

(以下、法脈世代五十二世(略))

右之通由緒代数無相違御座候法脈血脈御座候故如此書記差上申候、以上

天明七丁未七月

武州高麗郡篠井村滝音山白山寺觀音堂 判

口上

御急ニ御座故、早々下書付差上申候間、若落字等も御座候哉、兩御役僧方御立会ニ而、能々御改被成候而、西之内へ如此御信書義被成、可被差出候、尤良之手書候処ハ御持合之法脈通ニ皆書添可被成候、年号月日無御座候ハ御持合之御法房ニ御記可有被存候故記不申候 以上

東林寺

觀音堂大先達

兩御役僧中

※資料C中、二重消線のある字句はそのまま次の字句に連続している。また〔 〕内の文

字はその次の文字と併記されている。

※【 + 】内の文字は一字である。

(6) 大意

仏教が東に広まり日本に徐々に伝来したが、天地が分かれる前からこの道（修験道）は、神仏が分かれることなく、渾然一体のものとして存在した。名山大河に神が存在しないことはなく、神あれば霊が存在しないことはない。その霊が臨機応変に事象に現れることは、衆生

（人々）のために現れるものである。ここに滝音山観音堂は、第四十二代文武天皇の時代に、修験道の高祖、役小角がいろいろな山で修行する中、相模国八菅山から武蔵野を望むと、かすかな声が木々の間から聞こえてきた。小角が見ると、山中の滝の音が聞こえた。小角が跏趺合掌していると、妙なる香りがただよい、光が指してきた。そしてそこには、不動明王が滝の水の上に現れ、小角に向かって云った。汝が来るのを長い間待っていたが、この地には縁のある衆生が多くいるので、私の姿を彫刻せよ、と云って姿を消した。このことから不動尊像を彫刻し、石堂を建て安置した。この経緯を弟子の長岳に教え堂を守護させた。長岳は優婆塞の戒法と六波羅蜜の修行をして怠ることなく、その後弟子長元に伝えた。長元は、優婆塞の修行を相続し、長岳より行阿に至る二十代、小角の法流を伝えたが、年々廃れてきたところ、第七十四代鳥羽天皇の永久年中、園城寺行尊が小角の旧跡を復活させようと、諸山を歴訪し東方へ下り高麗明神の旧祠を訪ねようと進むと、行阿に出会い、小角真作の不動尊を拝謁した。そこで小角より伝授された密咒秘訣を、行阿に伝えた。行尊が此地の地形を見ると、西北に山、南に河、東に武蔵と、四神相応の地であるので、ここに背負ってきた笈の中から十一面観世音を出し、一字を建てて安置した。これは、村上天皇の守り本尊にて、唐の作品であると云う。また、白山権現を勧請して、伽藍の守護神となし、この土地が大峯の小篠に似ていることから、篠井と名付けた。この後、行尊が中興開山と言われた。

滝音山二十二世

行阿誌

(以下、法脈(略))

天明年中に、聖護院御門主より、由緒法脈世代等を教示すべく下知されたところ、旧書は錯簡、文字に虫喰い、また弁別できないものも少なくなく、このため東林寺と福泉寺で協議確認した上で上覧し、(聖護院) 森御殿御宝蔵へ納める。

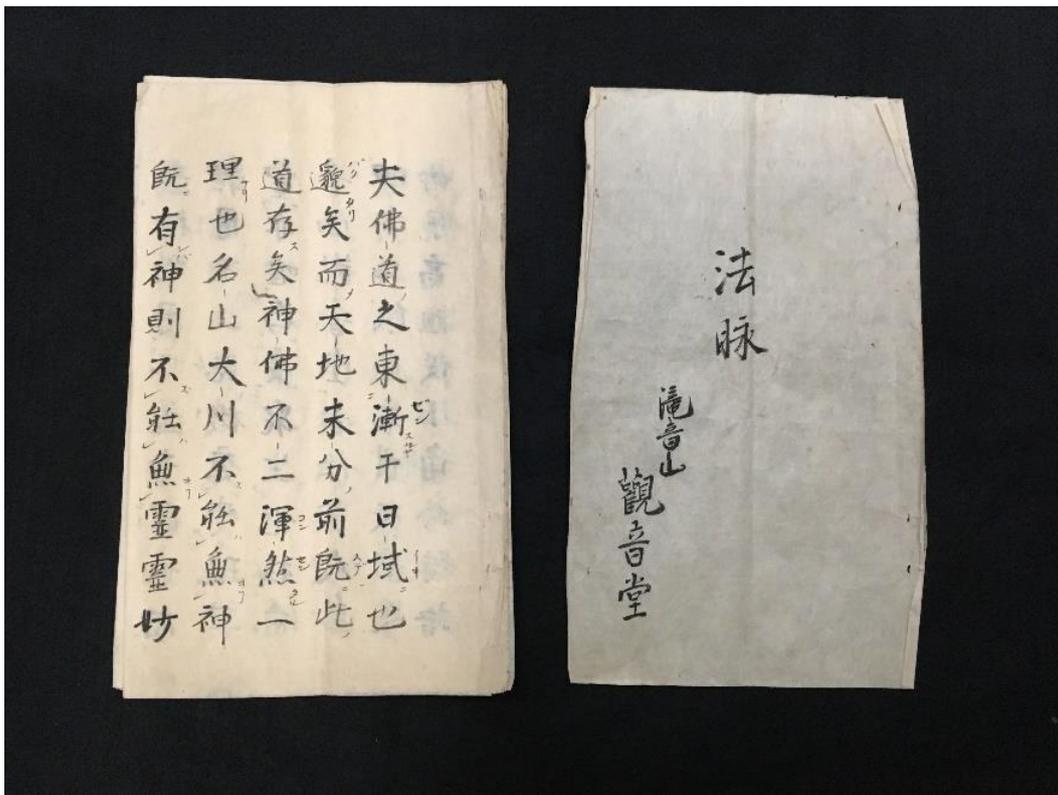
[参考文献]

『埼玉県史 通史編2 中世』1988

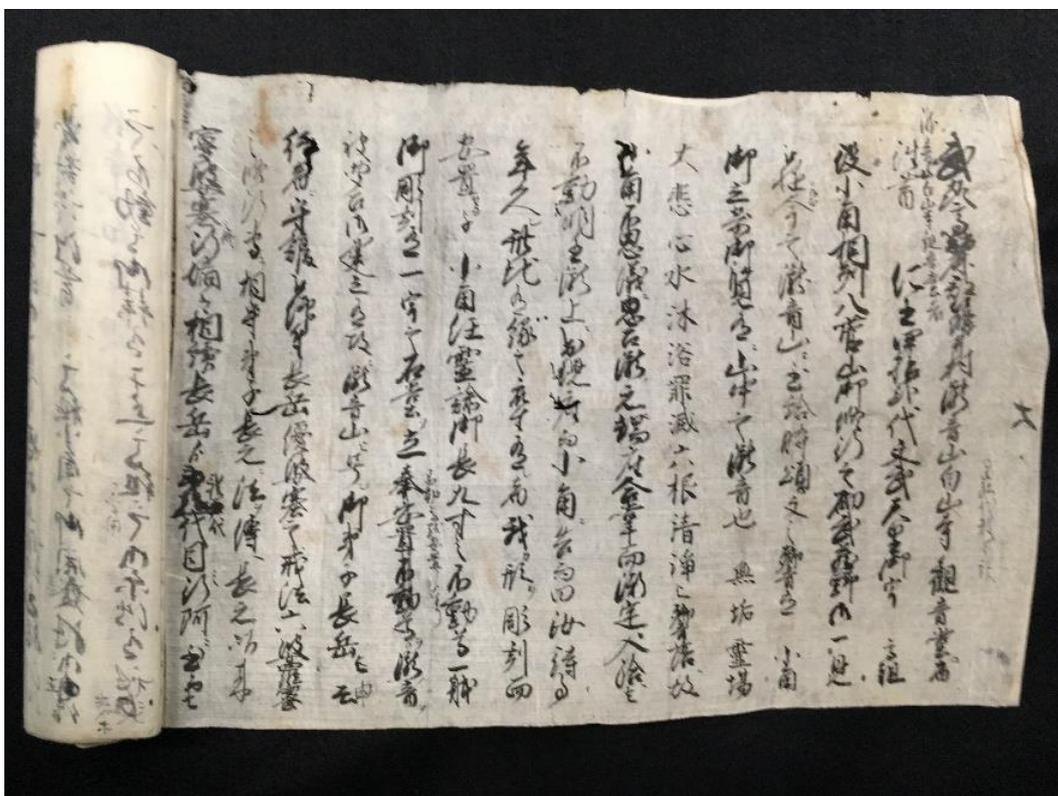
『狭山市史 中世資料編』1982

『所沢市史 通史編 上』1991

(7) 写真図版



資料B：「法脈 案」（資料番号 930175）冒頭



資料C：「(無題)」(資料名 笹井観音堂文書 資料番号 930176) 冒頭

3 文化財関係資料調査報告 粗揉機・中揉機・精揉機

安井 智幸

(1) 資料名及び経過

令和2年1月22日、北入曾に所在する製茶場より、製茶機3台を引き取らないかとの連絡があった。当日、現場にて、文化財担当職員が実見し、写真撮影と簡単な計測を行った。

2月19日、同職員が埼玉県茶業研究所の茶業技術研究担当 小川英之氏、農業革新支援担当 佐々木功二氏と共に現場で2度目の実見を行った。

(2) 資料概要

(ア) 粗揉機（伊達式：120×190×140）松下工場製

フレームは木製で、ブリキ製の半円形の固定胴と鉄製の回転軸と揉み手、攪拌手を有する回転機構によって機能部分を構成する。昭和31年製造。正面上部に茶葉投入口、正面下部に成果品取り出し口、左側面に温風の導入口、右側面に铸铁製の回転機構が配されている。後年に電動モーターを追加されている。

フレームの木材は組木で接合されており、堅牢かつ丁寧な作りになっている。金属部品の表面の約70パーセントは錆が発生している。被膜様の錆で、酸化の深度は浅いものと推察される。機能部分は機械油によって保護されているものの、油の酸化が進んでいるため潤滑油として機能しておらず、現状では動作の一部が制限されている。機能部分とモーターはV字形ベルトで接続されているが、元は帆布製の平ベルトで工場内に設けられた動力用回転シャフトに接続されていたと考えられる。

(イ) 中揉機（橋本式：120×180×130）静岡県橋本工場製

フレームは木製で、ブリキ製の回転ドラムと鉄製の回転軸と揉み手を有する回転機構によって機能部分を構成する。製造年は不明。左側面上部に茶葉投入口、正面下部に成果品取り出し口、左側面下部に温風の導入口を有する。後年に電動モーターを追加されている。

フレームの木材は組木で接合されており、堅牢かつ丁寧な作りになっている。金属部品の表面の約40パーセントは錆が発生している。被膜様の錆で、酸化の深度は浅いものと推察される。機能部分は機械油によって保護されているものの、油の酸化が進んでいるため潤滑油として機能しておらず、現状では動作の一部が制限されている。機能部分とモーターはV字形ベルトで接続されているが、元は帆布製の平ベルトで工場内に設けられた動力用回転シャフトに接続されていたと考えられる。

(ウ) 精揉機（高林式：120×180×120）静岡県伊達鉄工所製 型番S3`B型

二手揉み精揉機。フレームは木製で、铸铁製の揉手装置、回転筥、揉盤、加熱釜によって機能部分を構成する。製造年は不明だが、製造番号から類推すると、昭和31年前後か。動力を受けての回転機構は左側に集中し、揉手装置は中央と右側に配されている。機能部分は機械油によって保護されているものの、油の酸化が進んでいるため潤滑油として機能しておらず、現状では動作の一部が制限されている。後年に電動モーターを追加されている。機能部分とモーターはV字形ベルトで接続されているが、元は帆布製の平ベルトで工場内に設けられた動力用回転シャフトに接続されていたと考えられる。

揉手装置は铸铁製で、揉手装置には揉手の振り幅を切り替えるレバーが附属する。装置の下の揉盤は桎製である。また、その周辺のハッチ状の引き落とし皿はブリキ製か。前後の窪みに配されている回転筥は棕櫚製で、その上部に折りたたみ式の木製の蒸気反しが付いている。皿の下の加熱釜は燃焼部に覗き窓が設けられており、雲母ガラスがはめられている。燃

焼部正面にはガス燃焼棒が差し込まれる穴が穿たれ、ガス燃焼棒が挿入されている。燃焼部正面はハッチ状の引き落とし皿になっており、更にその下部には小さなハッチがついている。小さなハッチは何かを排出するための構造と考えられ、ガス棒での加熱以外に、固形燃料での加熱も想定される。

(3) 由来

ご尊父より埼玉県茶業研究所で使用されていたものが売りに出されていて、それを購入したと聞いたことがある、とのこと。

(4) 評価

3機とも、昭和30年代の木製フレーム製の製茶機械の晩期の製品である。基本的な製茶機能は全て有しており、1度に15キログラム（4貫目）を処理できる小型の機械であり、同年代の主力とされる製茶機の半量である点及び精揉機の揉手の振り幅を制御できる点から、品評会用の茶を製造することが目的とも考えられる資料である。木製フレームの製茶機は、シロアリの害を受けているケースが多い中、本資料は全く受けておらず、展示等に供する資料として評価できる。また、いずれも後付けされたモーター関連部品、錆及び酸化油等を取り除くことによって、問題なく茶を製造できるため、茶の製造工程やその機械の構造を示すには良い資料と評価できる。

(5) 写真図版



粗揉機
(1)



粗揉機
(2)



中揉機
(1)



中揉機
(2)



精揉機
(1)



精揉機
(2)

4 埋蔵文化財発掘調査概況報告

令和元年度狭山工業団地拡張地区基盤整備事業発掘調査業務埋蔵文化財（鳥ノ上・小山ノ上・上双木遺跡）発掘調査実績報告

三ツ木 康介

（1）調査業務の基本情報

ア 契約件名	狭山工業団地拡張地区基盤整備事業発掘調査業務
イ 遺跡名	鳥ノ上遺跡（市遺跡番号No.18・県遺跡番号 22-010） 小山ノ上遺跡（市遺跡番号No.19・県遺跡番号 22-011） 上双木遺跡（市遺跡番号No.37・県遺跡番号 22-077）
ウ 調査面積	別表参照
エ 調査期間	平成 31 年 4 月 16 日～令和 2 年 3 月 31 日
オ 調査主体者	狭山市教育委員会
カ 調査担当者	狭山市教育委員会 調査担当 三ツ木康介・安井智幸

（1）遺跡の概要

鳥ノ上遺跡は埼玉県狭山市柏原字笹久保に所在し、西武新宿線狭山市駅から北西に約 2 km 付近に位置している。遺跡は入間川左岸の台地上にあり、遺跡の範囲は南北約 600m、東西約 450m の広範囲に及ぶ。立地面の標高は南西端約 64m、北東端約 50m であり、南西から北東に向かって緩やかに傾斜し、遺跡東端部ではかなりの傾斜をもっている。

小山ノ上遺跡は狭山市柏原字小山ノ上に所在する、縄文・古墳・奈良・平安時代の集落遺跡で、遺跡中央には県道堀兼・根岸線が走っている。入間川左岸の台地上に位置し、標高は北端部で約 54m、南端部で約 61m、沖積地との比高差は約 11m を測る。遺物の分布密度から推測するに、遺跡北東部が縄文時代、遺跡中央部が古墳時代、遺跡南半部が奈良・平安時代と考えられており、また遺跡北東部には古墳の石室で使用されたと思われる河原石が 20 個ほど見つかっており、古墳も存在していた可能性がある。

上双木遺跡は入間川左岸のやや奥まった台地上にある小谷の谷底から右岸斜面にかけて位置する。標高は谷底部で 58m、遺跡東端部で 62m ほどある。遺物の散布状況は希薄だが、金くそ・とりべ片などが採集できていることから、製鉄に関する遺跡の可能性もある。

（2）調査の経過

令和元年度の調査は平成 31 年 4 月 16 日から開始し、令和 2 年 3 月 31 日に終了した。

経過は別紙の通りである。また、調査区が広大なため、ある程度の面積ごとに調査区設定し、発掘調査を実施した。調査区は A から割り振り、令和 2 年 3 月 31 日時点で AU 区まで設定した。調査は I・K・L・M・O から AU 区までが終了した。なお、今年度より国際文化財株式会社が発掘調査の補助として調査に参加し、I、O、R、V、W、X、Z、AA、AB、AC、AF、AH 区を担当した。また、添付図面の遺構の略号は、SJ が住居跡、SB が掘立柱建物跡、SD が溝跡、SA が柵列、SK が土壇、SC が集石土壇、SX が不明遺構を示す。

（3）調査成果の概要

平成 30 年度から 2 ヶ年で実施した本調査も調査対象地の約 9 割完了した。残りの 1 割については現状住んでいる家屋部分と生活道路部分となり、来年度の実施となる。

平成 30 年度から令和元年度までの調査で検出された遺構件数は堅穴住居跡 173 軒、掘立柱建物跡 97 軒、溝跡 11 条、土壇 210 基、集石土壇 10 基、柵列 3 件、不明遺構 7 件を数える。

大半の遺構の年代は、奈良平安時代とみられ、ごく少数縄文時代の陥穴が検出されている。

出土遺物は前年度同様、須恵器坏や土師器甕、その他にも完形品に近い須恵器甕や鉄鏃、黒色

(内黒) 土器、佐波理模倣埴などが出土している。

須恵器の産地としては東金子窯(入間市)で作られたものが多く、2割程度、南比企窯(鳩山市)で作られたものが混在する。その他にも、常陸地方や東北地方で作られた須恵器などが見ることができる。集計はまだ行っていないが、体感的には近隣の遺跡である今宿遺跡や、城ノ越遺跡で出土しているものより県外産のものが多く感じる。

集落の時期は現状出土している土器の器形等から推定するに8世紀前半に形成され、9世紀後半遅くとも10世紀前半には廃絶したものと考えられる。

出土遺構の特徴として、竪穴住居跡は、カマドの中心を主軸とした場合、全体的に住居の右側に主軸が寄っている住居跡が多く見られる点が挙げられる。また、掘立柱建物跡は、L区やO区で多く検出されており、倉庫群のようなものが有った可能性が考えられる。溝跡は、ほぼ南北に通っている溝や、直角に曲がっている溝等が検出しており、溝の内と外で明確な区画がなされていたと考えられる。特にSD-11は22m×20mの方形区画溝をなしており、入口が南側に1か所土橋で作られている。区画溝内にピット等が多数検出された。ピットは明確に建物の配置をなしているわけではないが、区画内には神社ないし寺院のような宗教的な施設があった可能性が考えられる。

集落の性格としては多く検出されている掘立柱建物から考えて、役所的機能を持つ郡衙ないし郷、もしくは本地域が過去雑木林であったことを鑑みれば、木の伐採所の可能性が考えられる。

なお、調査面積、検出遺構は別紙の通りである。面積についてはおおよその面積を記載している。遺構数は重複住居の精査などにより多少の減少の恐れはある。また、溝跡については同一直線状にあるものは同じ遺構番号を付与しているため、表上の遺構数と全体の遺構数では差異が生じている。

別表

調査 区名	面積 (㎡)	検出遺構数						調査 経過	調査 年次	調査 区分※2
		竪穴 住居跡	掘立柱 建物跡	土坑	溝状 遺構※2	不明 遺構	ピット			
A	1,140.00			7				済	30	市
B	3,348.63	6	3	21		1		済	30	市
C	1,238.00	1		4		1		済	30	市
D	584.40	1	2	13		1	2	済	30	市
E	1,135.00	5	1	8				済	30	市
F	1,929.00	6	3	7	2		7	済	30	市
G	1,460.00	3		2			9	済	30	市
H	328.33	8		4	2		28	済	30	市
I	2,121.40	5	8	33	1	2		済	31	国際
J	911.83	3		1				済	30	市
K	799.75	4						済	30	市
L	2,461.59	9	7	2				済	30	市
M	954.40	10		1	1		70	済	30	市
N	40.89	1			2			済	30	市
O	840.60	8	4	7	2		2	済	元	国際
P	1,510.00	遺構なし						済	元	市

Q	210.29	遺構なし					済	元	市	
R	692.25	遺構なし					済	元	国際	
S	942.20	遺構なし					済	元	市	
T	2,056.00	1		7	1			済	元	市
U	366.00	2			1			済	元	市
V	282.50	1	3	1				済	元	国際
W	285.20	遺構なし					済	元	国際	
X	955.70			4				済	元	国際
Y	1,304.00	7	5	19				済	元	市
Z	6,170.60	24	33	11	1		22	済	元	国際
AA	2,454.20	3		5			4	済	元	国際
AB	1,816.10	12	2	11	1			済	元	国際
AC	1,243.90	1	1		1			済	元	国際
AD	1,454.83			4	1			済	元	市
AE	1,085.75	1		6				済	元	市
AF	1,488.30	7	9	3			2	済	元	国際
AG	200.00	2	1	7		1		済	元	市
AH	1,168.30	3	4	4	1		9	済	元	国際
AI	2,058.00			2	2			済	元	市
AJ	211.80	遺構なし					済	元	市	
AK	1,278.60	1		2				済	元	市
AL	2,016.80				1			済	元	市
AM	2,697.00			1				済	元	市
AN	4,307.25	14	3	2	1			済	元	市
AO	1,340.00	4	1	1		1		済	元	市
AP	2,807.17	遺構なし					済	元	市	
AQ	2,501.83	遺構なし					済	元	市	
AR	802.93	遺構なし					済	元	市	
AS	1,617.00	遺構なし					済	元	市	
AT	2,758.00	遺構なし					済	元	市	
AU	1,501.08	遺構なし					済	元	市	
AV	3,159.10	15	6	7			4	済	元	国際
AW	5,857.80	5	1	3	6		184	済	元	国際
30年度	16,331.82	57	16	70	7	3	116			
元年度	61,441.07	111	73	107	19	2	227			
合計	79,894.28	173	97	210	27	7	343			

※1溝状遺構は調査区を横断して検出されており、それぞれの調査区で計数しているため数量が多くなっている。

※2「市」は市教委単独で調査を実施した事を示し、「国際」は市教委が国際文化財株式会社の支援を受けて実施した事を示す。



令和元年度
狭山市文化財年報

令和2年7月31日 発行

発行 狭山市教育委員会
埼玉県狭山市入間川1丁目23番5号
電話 04-2953-1111